2021年5月21日

教育情報化教材論A　第5回課題

A20-1417　　千尋 舞

課題：新eラーニングを定義する　―求められる評価を考える

私はeラーニングを「知識のインプットの場」と定義した。これは以前の認知主義的な要素が強い考えだ。しかしだからといって以前のように、テストだけで評価するだけでは乏しい。

私はeラーニングを導入するだけでは負担のかかり方が変化するだけで授業への取り組み自体は変化しないと考える。コメントをするだけ、動画を見るだけ、課題を提出するだけ、のように及第点を得るための受け身な姿勢では何も生まれないと考えるからだ。確かに、どの部分において児童生徒の興味関心が生じるかは分からない。しかしたとえ小さくても興味をもつ瞬間があり、そこでの探究心は評価し伸ばしていく必要がある。本時の授業において何が面白いと思ったか、何はつまらないと感じたかを記録として残しておく活動には、子どもたちの興味の芽を育む力があると感じる。そのためにも、「授業内で扱った内容において興味を持ったキーワードをさらに調べてみよう」という課題とそれに対する提出物への内容評価は有効であると考える。